

「みらいのかぞくプロジェクト」キックオフ・イベント
“みらいのかぞく”を考える～人の心・制度・科学技術～
2016年2月11日(木・祝)にトークイベント開催

にっぽんかがくみらいかん

日本科学未来館(略称:未来館 館長:毛利 衛)は、家族の多様性と科学技術の関わり方を考える「みらいのかぞくプロジェクト」のキックオフ・イベントとして、2016年2月11日(木・祝)に、トークイベント“みらいのかぞく”を考える～人の心・制度・科学技術～を開催します。

近年、価値観の多様化や医療技術、科学技術の進展によって、様々な新しい「家族のかたち」が現れています。代理母出産や精子提供・卵子提供など第三者が介在する生殖補助医療がおこなわれるようになり、親子の遺伝的なつながりも多様化しています。さらには、幹細胞技術により同性同士でお互いの遺伝子を受け継ぐ子どもをもうけたり、新しい遺伝子操作技術「ゲノム編集」により遺伝情報を書き換えたりすることが技術的には可能になるかもしれません。

本イベントでは、家族のかたちが多様化していく未来に科学技術はどう関わるべきか、そして誰もが排除されない社会を築くにはどうしたらよいか、医療社会学の観点から武藤香織氏、文化人類学の観点から松尾瑞穂氏を講師に迎え、参加者とともに考えます。ぜひ貴媒体にてご掲載、ご取材いただきますようお願い申し上げます。

講師プロフィール

武藤香織氏(東京大学医科学研究所 公共政策研究分野 教授)

2002年博士(保健学)取得。2013年より現職。家族と縁の深い医療や医学研究の現場や政策を調査研究。特に、被験者、患者、障害者の立場からみた課題を抽出し、研究や医療という営みに少しでも主体的な参画ができるようにするための研究に力を注いでいる。

松尾瑞穂氏(国立民族学博物館 先端人類科学研究部 准教授)

2008年博士(文学)取得。2014年より現職。インドを対象としたリプロダクション(性と生殖)を主要な研究領域とし、産む、産まない、産めないをめぐる社会的営みや文化的実践、歴史的変容を検討。近年は、インドの代理出産の現状とその背景を調査し、各地の比較も行っている。

■みらいのかぞくプロジェクト

科学技術がもたらす変化や可能性を切り口に、誰にでも関わりのある「家族」の多様性を考える日本科学未来館のプロジェクト。科学技術面だけではなく、社会学・文化人類学的側面や制度のあり方、個々人の心持ちも含めて議論することにより、多様性を認めつつ皆が幸せに暮らせる社会に向かうきっかけをつくっていくのが、このプロジェクトのミッションです。

【概要】

タイトル トークイベント「みらいのかぞく」を考える～人の心・制度・科学技術～

日時 2016年2月11日(木・祝) 13:00～15:00(12:30開場)

会場 日本科学未来館 7階 イノベーションホール

参加費 無料

申込方法 要事前申込。日本科学未来館ウェブサイト上の申込フォームからお申込ください。(定員80名)

主催 日本科学未来館

【プログラム】

主旨説明(5分)、基調講演①松尾瑞穂氏「文化人類学から見る家族のかたち」(20分)、未来館科学コミュニケーターからの話題提供(5分)、基調講演②武藤香織氏「家族の多様化における科学とのつきあい方」(20分)、客席も交えたディスカッション(70分)

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikanjst.go.jp/	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraikanjst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150